令和８年度第２回奥州市男女共同参画推進委員会

日時：令和８年 10 月 21 日（水）
午後２時から
場所：江刺総合支所 213 会議室

次　　第

市民憲章唱和

１　開　会

２　あいさつ

３　報告
令和８年度奥州市男女共同参画に関するアンケート結果について

４　協議
第３次奥州市男女共同参画計画（草案）について　※資料添付を省略

５　その他

６　閉　会

令和５年度男女共同参画川柳の入賞作品
【最優秀賞】「さあ行こう　明るい未来に　差別なし！！」
【優 秀 賞】「対等に　超過勤務が　ネックなり」
「スマートに　相手を思う　さりげなく」

奥州市男女共同参画推進委員会委員名簿（敬称略）

（任期：令和８年６月 29 日から令和 10 年６月 28 日まで）

No.	所属等	氏　名	備　考
1	国立大学法人弘前大学男女共同参画推進室	山下（やました）　梓（あずさ）	学識経験者
2	岩手県男女共同参画サポーター	高橋（たかはし）　千夏子（ちかこ）	
3	岩手県男女共同参画サポーター	松芳（まつよし）　トミ子（とみこ）	
4	岩手県男女共同参画サポーター	小澤（おざわ）　優美子（ゆみこ）	
5	水沢人権擁護委員協議会	久保田（くぼた）　淳（じゅん）	副委員長
6	奥州市民生児童委員連合協議会	安部（あんべ）　佐代（さよ）	
7	奥州市校長会	八幡（やはた）　ますみ	
8	奥州商工会議所	戸田（とだ）　淳也（じゅんや）	
9	前沢商工会	柏山（かしやま）　修治（しゅうじ）	
10	胆江地区労働組合連合会	菊池（きくち）　英岳（えいがく）	
11	連合岩手胆江地域協議会	戸松（とまつ）　大翔（たいき）	
12	奥州市地域婦人団体協議会	千葉（ちば）　ツエ子（つえこ）	
13	奥州市行政区長連絡協議会	塚本（つかもと）　康雄（やすお）	
14	奥州市ＰＴＡ連合会	青木（あおき）　千春（ちはる）	
15	公募	夏井（なつい）　健（たけし）	
16	市長が必要と認める者	佐々木（ささき）　修（おさむ）	委員長

３　報告　令和８年度奥州市男女共同参画に関するアンケート結果について

（1）令和８年度奥州市男女共同参画に関するアンケート結果について
標記アンケートについて、「令和８年度奥州市男女共同参画に関するアンケート報告書（未定稿）」より一部抜粋

①調査期間
令和８年４月 27 日（月）～令和８年５月 31 日（日）

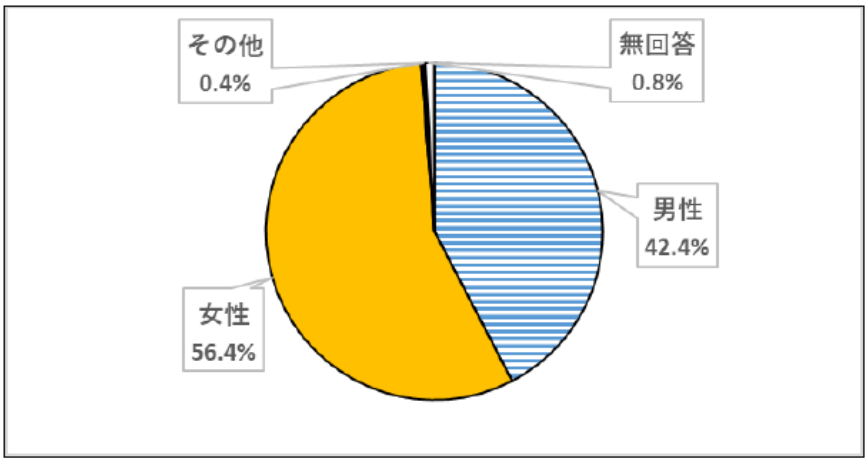
②回収状況
発送数　1,300 票
回収数　472 件
回収率　36.3％

③回答者の基本属性

■性別

男性	200
女性	266
その他	2
無回答	4
計	472

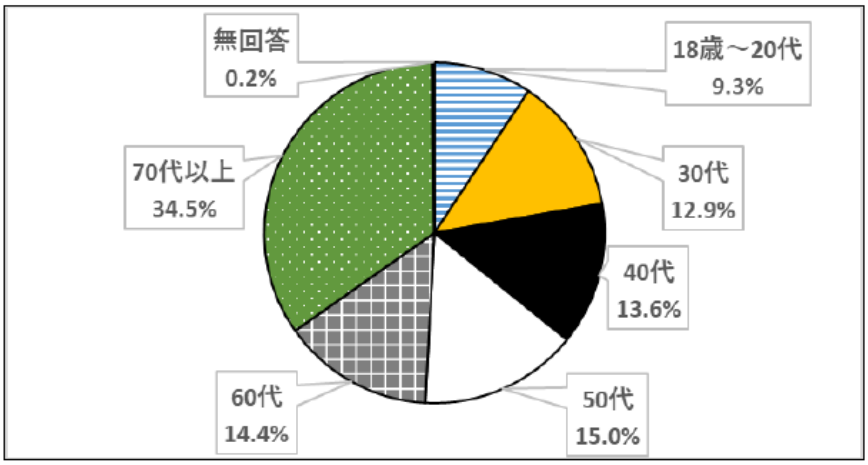
（単位：人）



■年齢

18 歳～20 代	44
30 代	61
40 代	64
50 代	71
60 代	68
70 代以上	163
無回答	1
計	472

（単位：人）



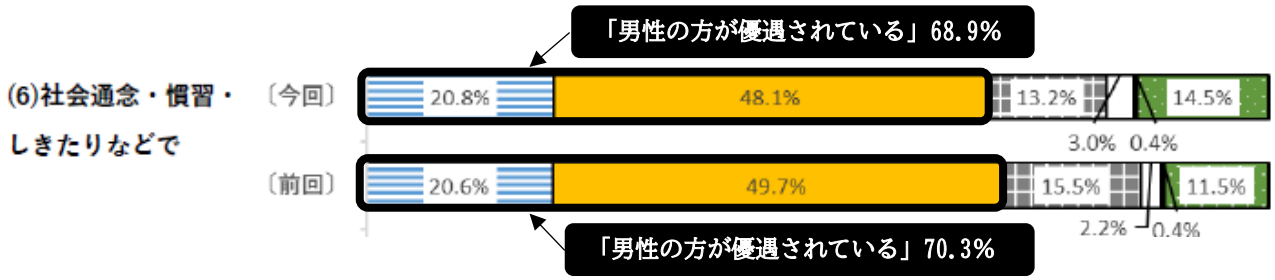
④結果（一部抜粋）

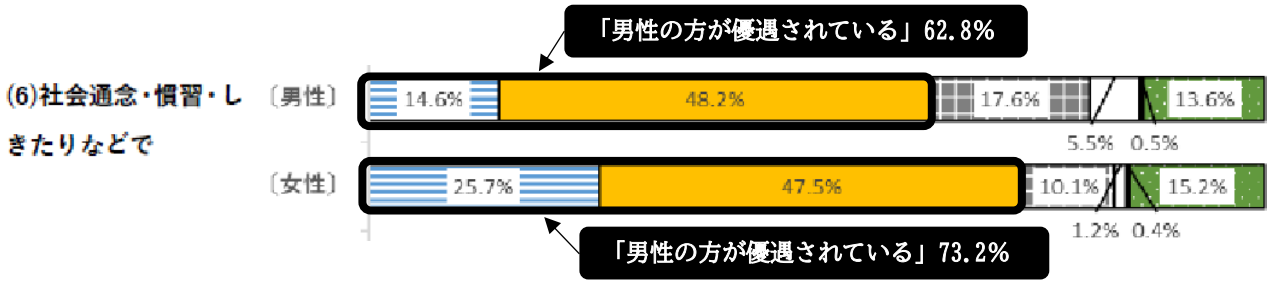
設問１　各分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。（報告書 P5）

※男性の方が優遇されている…男性の方が非常に優遇されている・どちらかといえば男性の方が優遇されている

社会通念・慣習・しきたりなどで　目標値 50%（今回調査 68.9%）

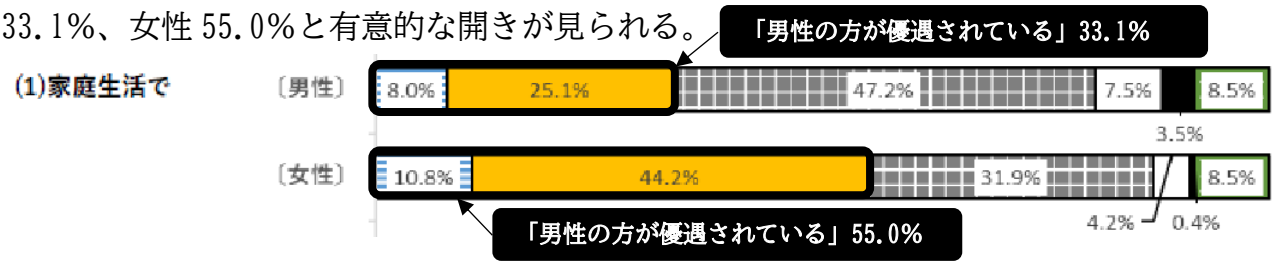
「男性の方が優遇されている」という回答が、前回調査 70.3%、今回調査 68.9%（統計的な有意差なし）で目標値に届いていない。なお、男女間に有意的な開きが見られる（男性 62.8%、女性 73.2%）





家庭生活で（指標以外）

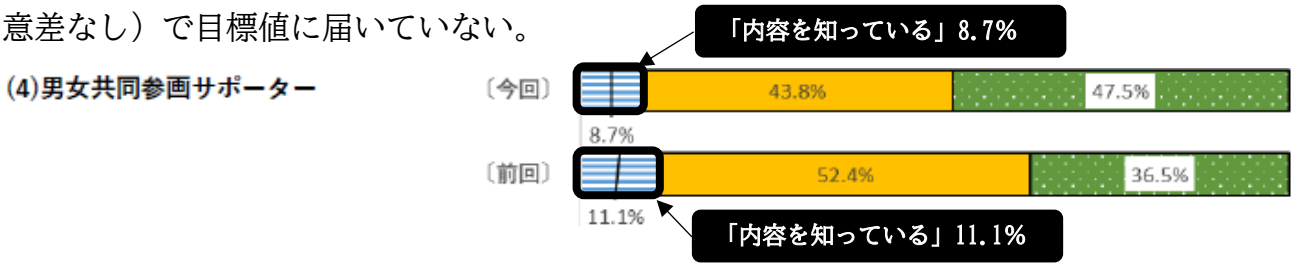
指標とはなっていないものの、設問１の全分野中、男女間の開きが最も大きかった分野である。「家庭生活で」の「男性の方が優遇されている」という回答を男女別にみると、男性 33.1%、女性 55.0%と有意的な開きが見られる。



設問２　以下のうちで見たり聞いたりしたことがあるものはありますか。（報告書 P18）

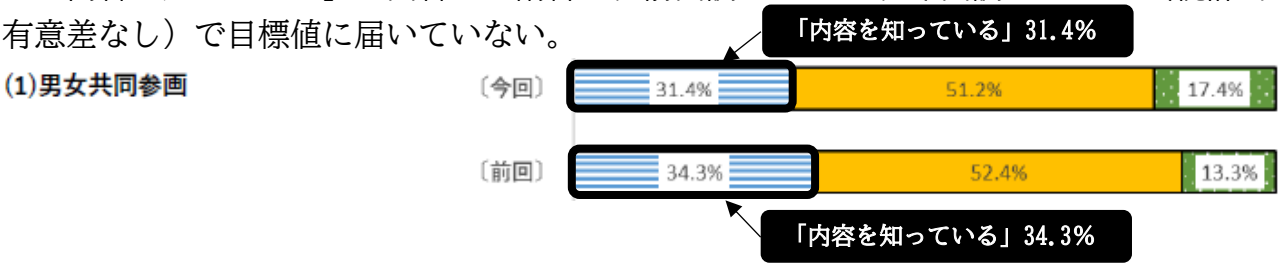
男女共同参画サポーター　目標値 20%（今回調査 8.7%）

「内容を知っている」と回答した割合は、前回調査 11.1%、今回調査 8.7%（統計的な有意差なし）で目標値に届いていない。



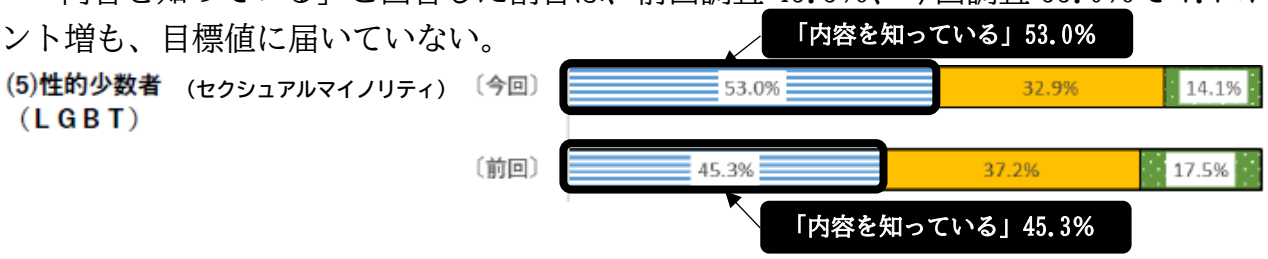
男女共同参画　目標値 50%（今回調査 31.4%）

「内容を知っている」と回答した割合は、前回調査 34.3%、今回調査 31.4%（統計的な有意差なし）で目標値に届いていない。



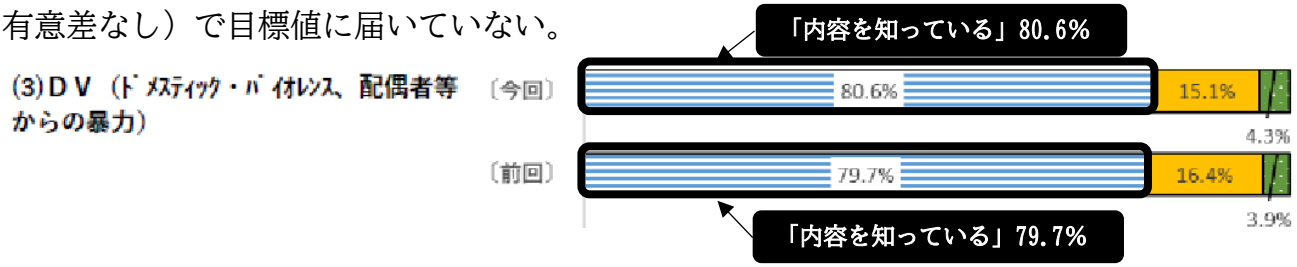
性的少数者（セクシュアルマイノリティ・LGBT）　目標値 60%（今回調査 53.0%）

「内容を知っている」と回答した割合は、前回調査 45.3%、今回調査 53.0%で 7.7 ポイント増も、目標値に届いていない。



DV（ドメスティック・バイオレンス、配偶者等からの暴力）　目標値 87%（今回調査 80.6%）

「内容を知っている」と回答した割合は、前回調査 79.7%、今回調査 80.6%（統計的な有意差なし）で目標値に届いていない。

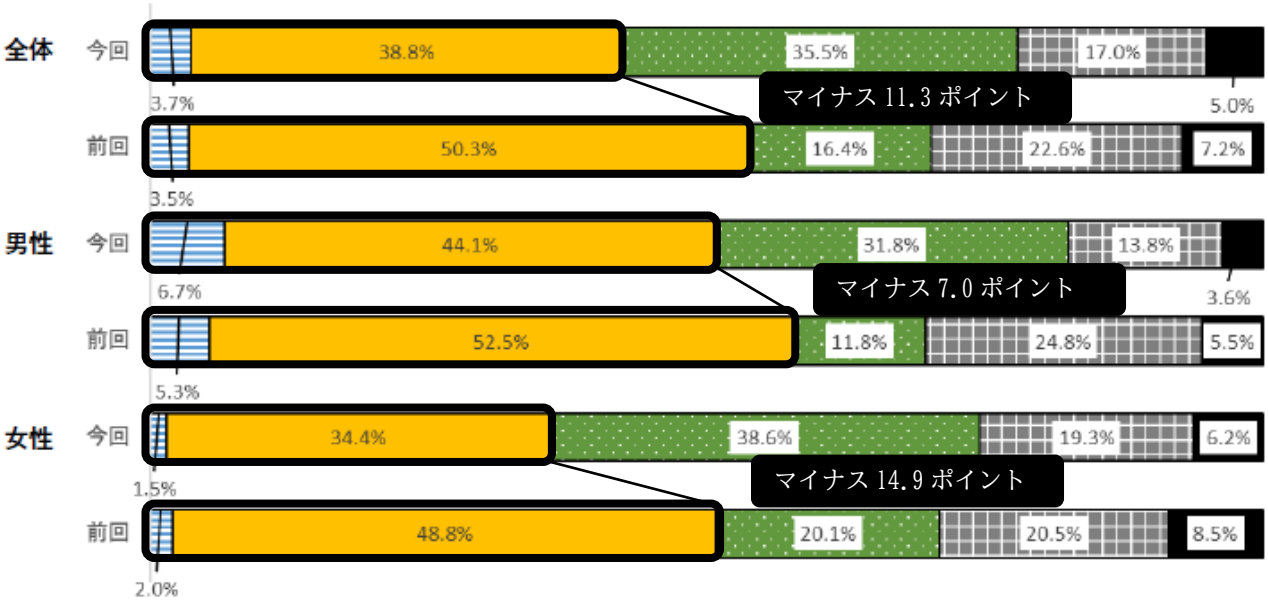


設問５　現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。（報告書 P26）

※働きやすい…大変働きやすい・ある程度働きやすい

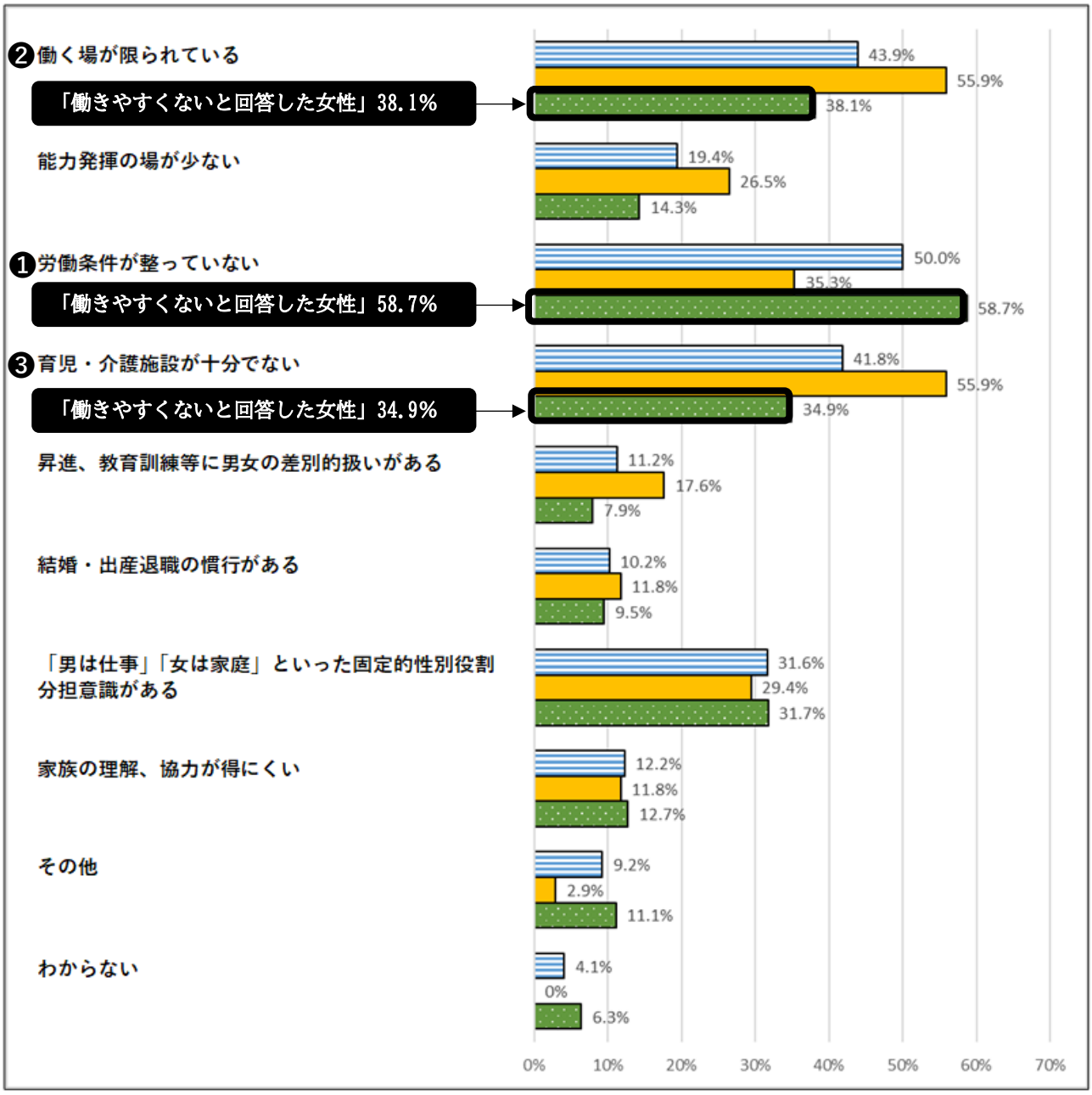
※働きやすくない…あまり働きやすくない・働きやすくない

男女共に、前回調査より「働きやすい」と回答した割合が減少している。



「働きやすくない」と回答した女性が挙げた理由で最も多かったのは「労働条件が整っていない」(58.7%)、「働く場が限られている」(38.1%)、「育児・介護施設が十分でない」(34.9%)の順だった。

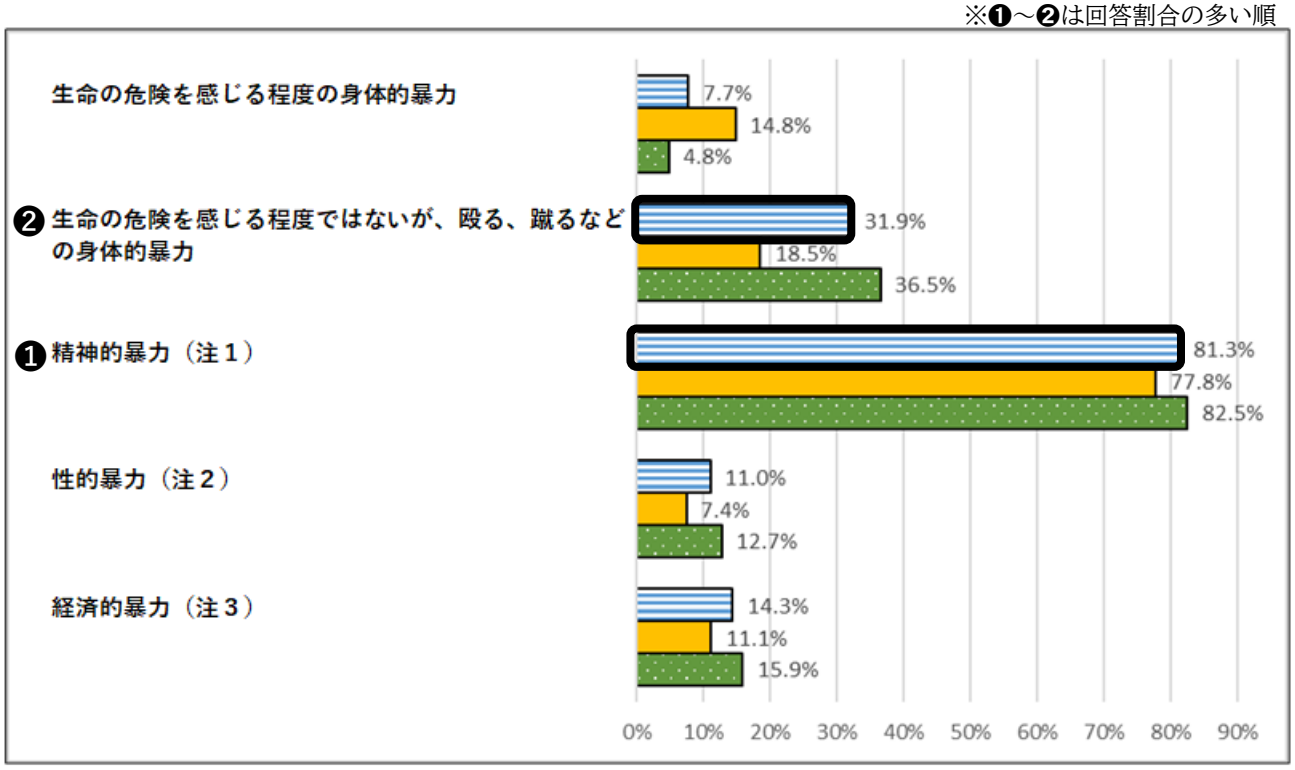
※❶～❸は回答割合の多い順



設問７　過去に DV を受けたことがありますか。（報告書 P29）

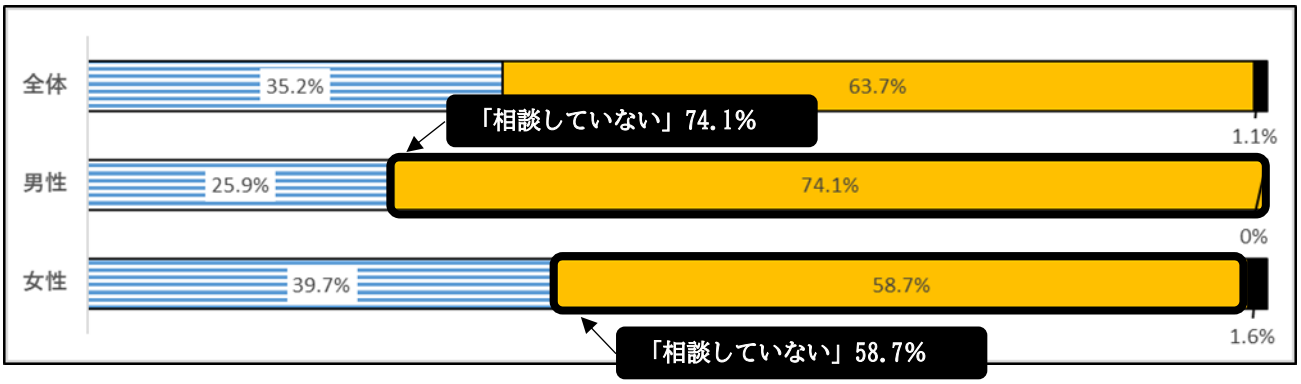
男女共に、最も多い DV は「精神的暴力」、次いで「生命の危険を感じる程度ではないが、殴る、蹴るなどの身体的暴力」の順だった。

※❶～❷は回答割合の多い順



設問８　DV を受けた時に相談しましたか。（報告書 P30）

DV を受けたことがある人に相談したか聞いたところ、男性の 74.1%、女性の 58.7%が相談していない状況であった。男性の多くが相談に繋がっていない状況を国においても問題視している。

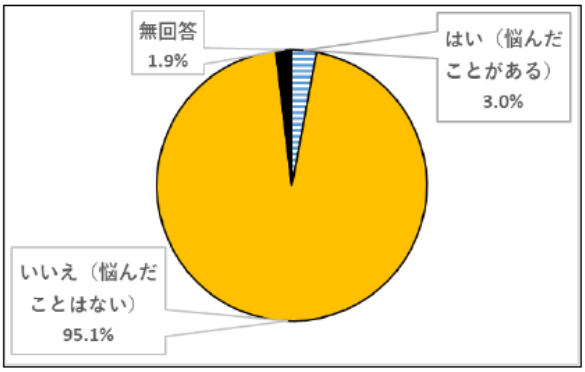


設問 11　自分の身体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか。（報告書 P32）

472 人中 14 人（3.0%）が「悩んだことがある」と回答している。

はい（悩んだことがある）	14
いいえ（悩んだことはない）	449
無回答	9

（単位：人）

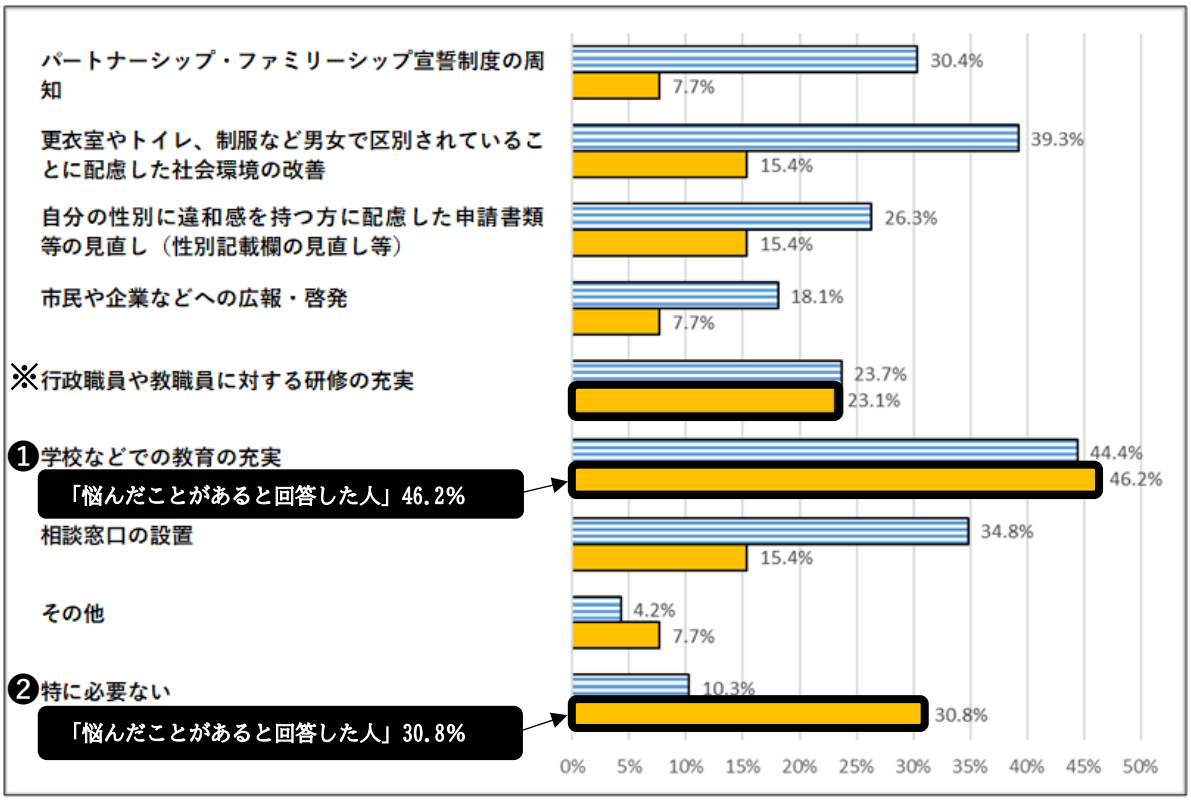


設問 13　LGBT の生きづらさを解消するために何が必要だと思いますか。（報告書 P33）

悩んだことがある人の回答を見ると、「学校などでの教育の充実」（46.2%）が最も多く、次いで「特に必要ない」（30.8%）という順だった。「特に必要ない」という回答が多かったことについて LGBT 関係団体に見解を伺ったところ、「今の世の中で、性的少数者であると公言することで得られるメリットはない。」という気持ちの表れではないかという意見が出された。

なお、LGBT 関係団体から、市役所での窓口対応時の配慮についての要望があった。アンケートにおいても悩んだことがある人の 23.1%が「行政職員や教職員に対する研修の充実」を選択していることから、庁内においても改めて配慮について認識を共有する必要がある。

※❶～❷は回答割合の多い順



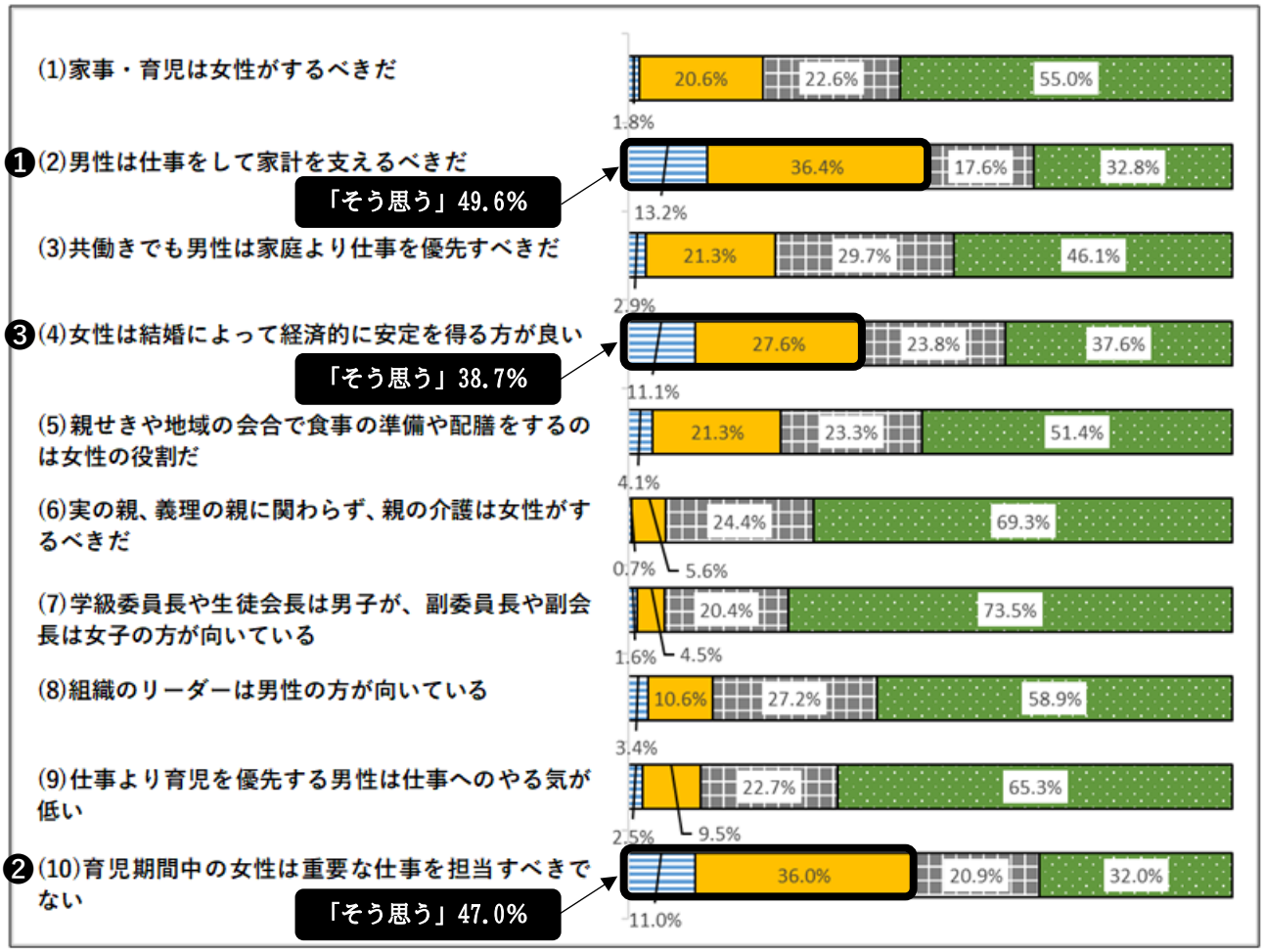
設問 14　固定的性別役割分担意識について、気持ちに近いものを選んでください。（報告書 P34）

※そう思う…そう思う・どちらかといえばそう思う

今回調査から「固定的性別役割分担意識」に関する設問を取り入れた。

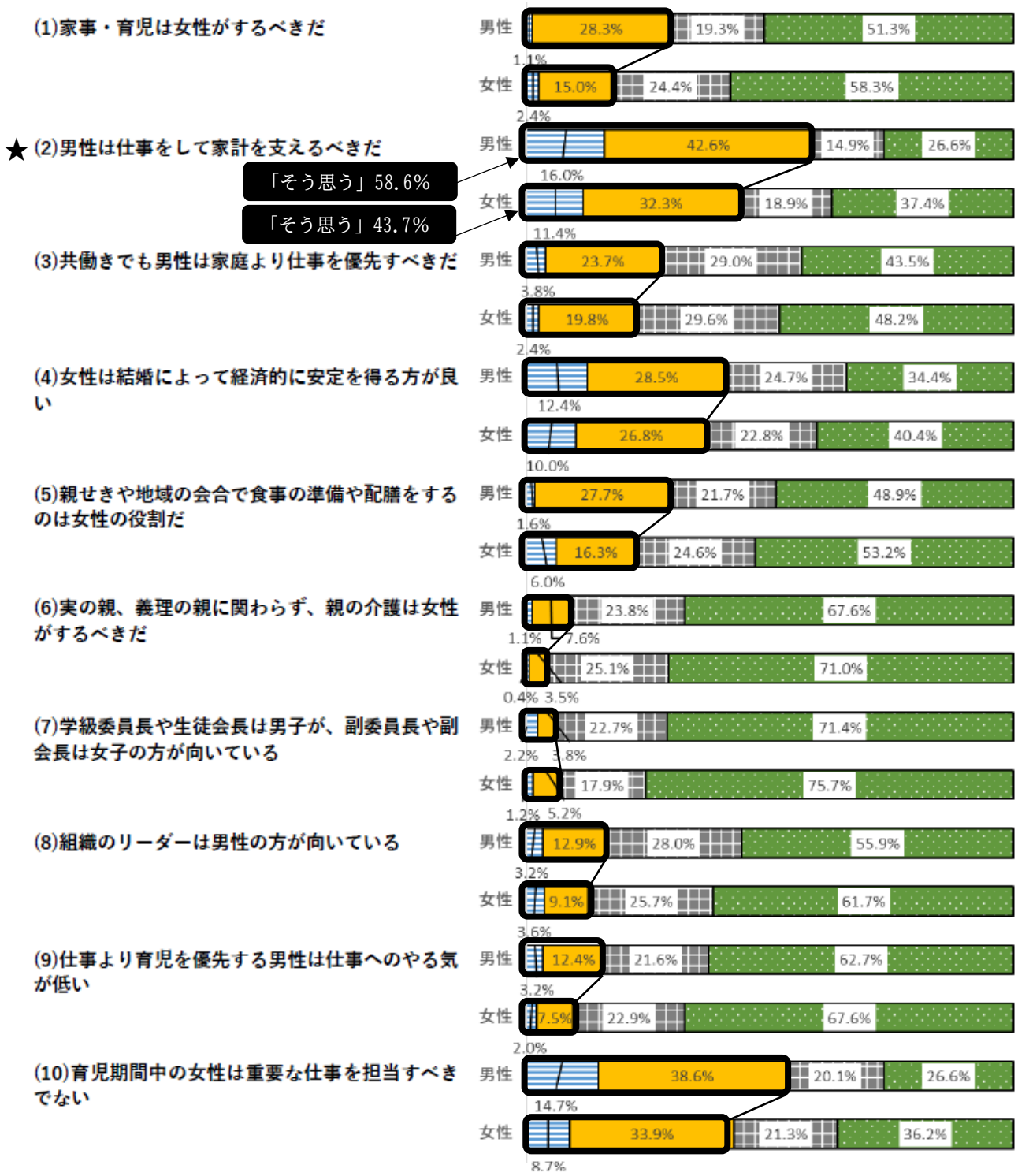
「そう思う」、つまりバイアスが最も根深かった回答は、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」（49.6%）、次いで「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」（47.0%）、「女性は結婚によって経済的に安定を得る方が良い」（38.7%）の順となっている。

※❶～❸は回答割合の多い順



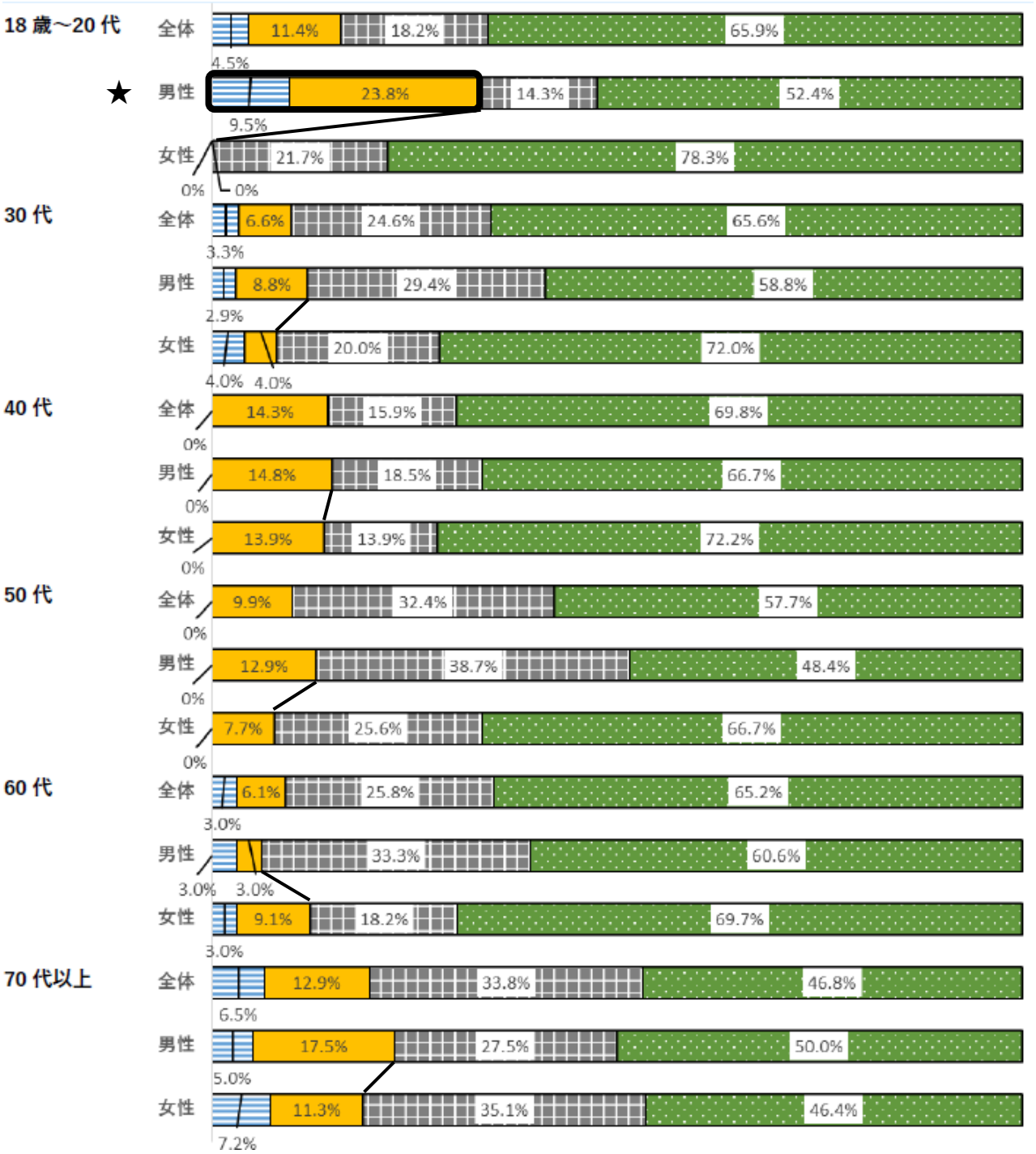
全体を男女別に見ると、全 10 問のうち９つにおいて、男性のバイアスが強い傾向となっている。

「そう思う」という回答が最も多かった「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」については、「そう思う」が女性 43.7%だったのに対し、男性は 58.6%と男性自身の方が「そう思う」割合が高かった。



また、「18 歳～20 代」の男性において、比較的強い思い込みが見られた。特にも「組織のリーダーは男性の方が向いている」という問に関しては、「18 歳～20 代の男性」の回答が、全年代で最も多かった。

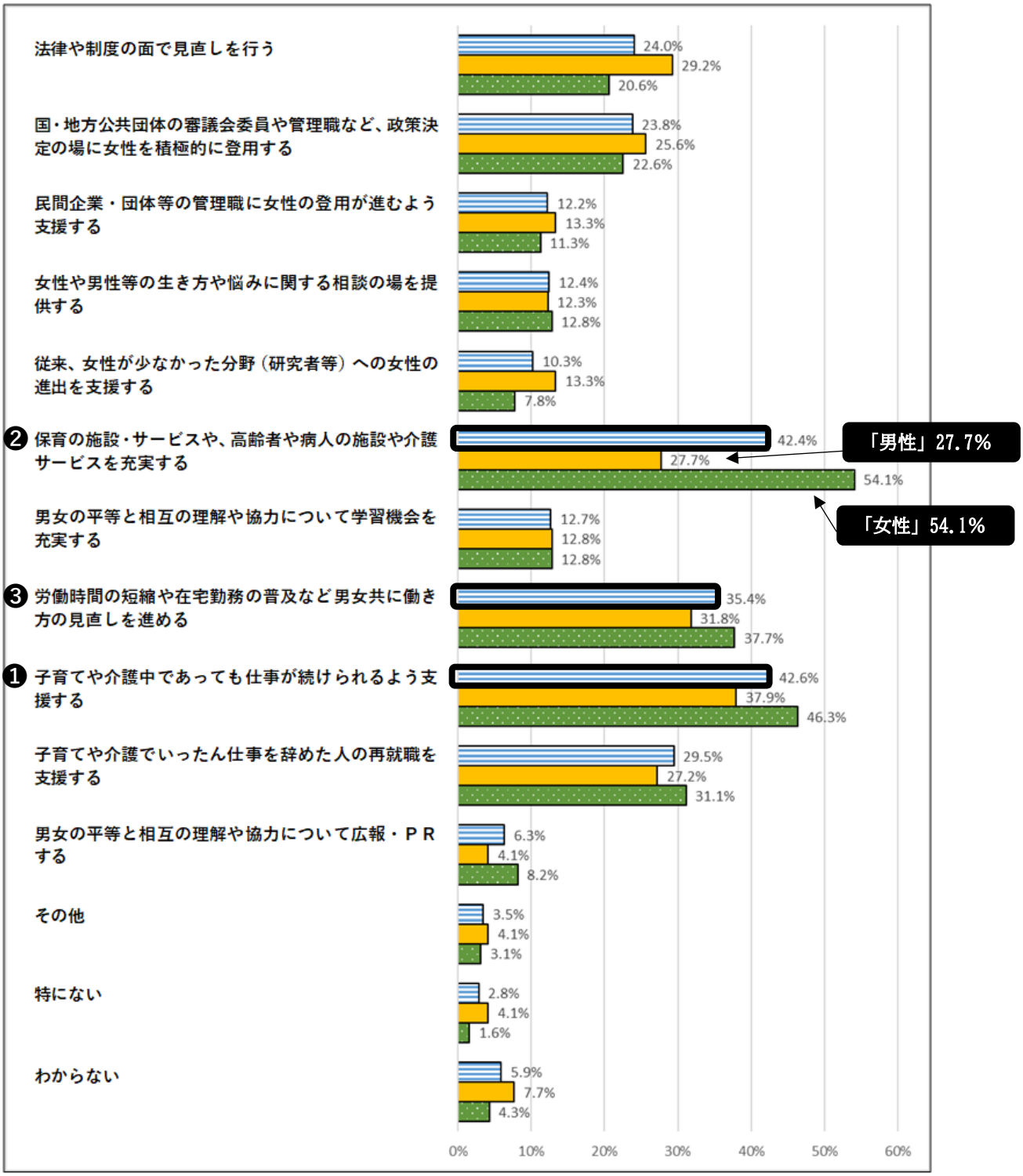
（8）「「組織のリーダーは男性の方が向いている」



設問 15　男女共同参画社会に関する行政への要望について（報告書 P46）

全体で見ると、最も多かったのが「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」（42.6%）、次いで「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」（42.4%）、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」（35.4%）の順だった。

「保育の施設･サービスや､高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」については、男性が 27.7%、女性が 54.1%と、女性の割合が男性の２倍近くとなっている。



（2）次期計画の推進において考慮すべき点について

アンケート結果及び意見交換会での意見を受け、次期計画においては、以下の６項目を念頭に置き、男女共同参画施策を推進する。

１．計画指標の未達成について　－一層の普及啓発－

第２次計画の指標となっている平等感及び言葉の認知度５項目は、いずれも設定した目標に到達していない。本アンケート結果を踏まえ、今後の普及啓発活動においては、これまでの全住民対象型の講演会にこだわらず、ターゲットやテーマ等の設定により戦略的なアプローチを行っていく必要がある。　⇒各施策の普及啓発において実施

２．家庭生活における男女間の平等意識の格差　－家庭向け啓発活動の強化－

「男性の方が優遇されている」という意識調査で男女間の回答の開きが最も大きかった分野が「家庭生活」であり、前回調査より女性の「男性の方が優遇されている」という回答が増加している。具体的にどのような点で男性が優遇されていると感じているのか、実態を把握した上での家庭向けの啓発活動が求められる。

⇒基本目標３（１）「家庭・地域での男女共同参画の推進」において実施

３．女性の就労関係　－事業主への働きかけ－

就労環境については、制度面では充実している一方で、「女性が働きやすい環境である」と回答した割合が前回調査より減少しており、「働きやすくない」と回答した女性の 58.7%が「労働条件が整っていない」ことを理由に挙げている。

具体的にどのような点で条件が整っていないと感じているのか、実態を把握した上での事業主への働きかけが大切である。

⇒基本目標１（２）「労働の場における男女共同参画の推進」において実施

４．DV に関する課題　－被害者が声を上げやすい環境づくり、性別にかかわらない支援－

DV 被害者のうち、男性の 74.1%、女性の 58.7%が相談していないという結果を受け、暴力防止に関する啓発に併せ、被害者が声を上げやすい環境づくりにも力を入れていく必要がある。

また、男性被害者の多くが相談していないという実態について国においても問題視しており、LGBT 関係団体との意見交換会において話が出た同性同士の DV 問題と併せて、性別等にかかわらず支援できる体制整備が必要である。

⇒基本目標３（２）「多様な困難を抱えた女性等への支援」において実施

５．LGBT に関する認識　－権利保障の実感－

今回調査では、472 人中 14 人（3.0%）が性について「悩んだことがある」と回答している。LGBT 関係団体との意見交換会の中で「今の世の中、自分が性的マイノリティであることを公言するメリットはない」という発言があり、結果的に「見えない」ことが支援ニーズの

把握を妨げていると考えられる。

マイノリティにも多数派と同じ人権が保障されているという当たり前のことを周知し、多様性を尊重し合う社会の実現に繋げていく。

また、意見交換会の中で、職員の窓口対応を行う際の配慮についての要望があったことから、このことについて改めて庁内で認識を共有する必要がある。

⇒基本目標２（４）「性の多様性の尊重」において実施

６．固定的な性別役割分担意識とアンコンシャスバイアス　－気づきを促す－

第３次計画では「固定的な性別役割分担意識の解消とアンコンシャスバイアスの気づき」を重点項目のひとつとして掲げる予定でいる。固定的性別役割分担意識の設問において「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」や「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」については「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答が半数弱を占めており、固定的な性別役割分担意識の解消とアンコンシャスバイアスの「気づき」を促す取り組みが求められる。

⇒基本目標２（２）「社会における不平等な慣行の見直し」において実施